

3月15日はオリーブの日！ 小豆島のオリーブは植栽110周年



手摘みで丁寧収穫するのは、昔から変わらない小豆島のオリーブ栽培のこだわり

オリーブと柑橘の農園、井上誠耕園(所在地:小豆島町池田、園主:井上智博)がある小豆島では、今年「オリーブ植栽」110周年を迎えます。昭和47年に小豆島で制定された「オリーブの日」3月15日には、島内でオリーブに関するさまざまな催しが行われ、当園の直営店舗でもオリーブ植栽110周年にちなんだイベントを開催します。

※オリーブの日について

昭和25年3月15日に昭和天皇が四国訪問時に小豆島にお立ち寄りになり、オリーブの種をお手まきしたことに由来しています。

昭和47年に、当時衰退していた小豆島のオリーブ生産を憂いた有志によって結成された「オリーブを守る会」が、「もつと多くの人にオリーブを知って頂きたい」と制定しました。

井上誠耕園のオリーブの日イベント

毎年オリーブの日にはさまざまなイベントを行っている井上誠耕園。

今年も地元・小豆島の人にもっとオリーブオイルを身近に感じてもらうと、小豆島町池田港近くの直営店舗・らしく本館(小豆島町蒲生甲61-4)では3月15日から18日の4日間「小豆島オリーブの日感謝祭」を開催します。

1階 オリーブ専門店

井上誠耕園 ザ・スタイルショップ マザーズ

オリーブオイルの量り売りやアヒーシヨの試食(土日限定)、スタンプリィ、110周年にちなんだ特別割引など



2階 カフェ・レストラン

忠左衛門

手延べパスタ祭り(4種類のパスタコース、オリーブオイルコンフィオリーブオイル漬け)&サラダバーなど



井上誠耕園 3月の農園の様子

オリブは暖かくなると根が動きだし、新芽を伸ばしはじめます。

いよいよ春を迎える畑では、今年一年オリブや柑橘がすくすく育ち、無事に収穫の秋を迎えることができるよう畑や木を整えます。

3月の主な農園作業

- ・オリブ、柑橘の木の剪定（柑橘がメイン）
- ・オリブの木の植替え（大きく育ったオリブの木の引越し）
- ・畑の除草
- ・施肥
- ・開墾作業（耕作放棄地や雑木林を畑に再生）



オリブの木の剪定



オリブの木の植替え

小豆島とオリブの歴史の変遷

国産オリブのはじまりは日露戦争から

明治37年から38年の日露戦争の結果、日本は北方領海に広大な漁場を獲得しました。そこで獲れる大量の海産物の保存に頭を悩ませた日本政府は、解決策として魚介のオイル漬けに着目。海外で油漬けに使われていた「オリブオイル」の国産化をめざし、オリブの栽培計画をスタートさせました。

そしていまから110年前の明治41年、政府によって三重、鹿児島、香川県小豆島でオリブの試験栽培を開始。そのなかで唯一栽培に成功した小豆島は、その後国内唯一のオリブの生産地として試行錯誤を重ねながら栽培・加工の技術を高めていきました。

小豆島のオリブ生産の衰退と回復

小豆島のオリブ栽培は昭和39年に栽培面積130ha生産量462tとピークを迎えますが、昭和34年の輸入自由化による安い外国産加工品の影響や、害虫被害の増大によってしだいに衰退していきました。

昭和63年には栽培面積34haにまで減少しましたが、平成に入りイタリア料理や健康食ブームによってオリブオイルの認知・人気が広がり、国産オリブの生産量も少しずつ増加に転じます。

平成15年に小豆島の旧内海町(現小豆島町)

が「オリブ振興特区」として認定されると、企業もオリブ栽培に参入できるようになり栽培面積も広がっていきます。香川県もオリブ栽培を振興し、県内の栽培面積は平成23年に144haと最盛期を越えました。平成26年現在、香川県はオリブ栽培面積178ha、生産量では国内生産の95.3%を占める376tを誇ります。

また、香川県農業試験場小豆オリブ研究所によると、農業の6次産業化や耕作放棄地対策、地域活性化の目的で平成20年以降、小豆島にオリブ関係の視察が急増しているようです。

国内のオリブ生産は九州を中心に中四国、関東など全国に広がり、110年前に小豆島ではじまった国産オリブ栽培はいま、盛り上がりを見せています。



井上誠耕園の園内にある「百年の丘」。オリブ植栽100年にあたる2008年に、「次の100年も小豆島にしっかりとオリブが根付いてほしい」との想いで名付けた。

本件に関するお問い合わせ

井上誠耕園 広報担当 八十(やそ)、西里 メール: yaso@inoueseikoen.co.jp

〒761-4301 香川県小豆郡小豆島町池田 882-6

TEL:0879-75-1355 FAX:0879-75-1218

HP: <https://www.inoueseikoen.co.jp>